MRI 三菱総合研究所

日本

GDP2次速報予測（2025年7-9月期）

小幅下方修正を見込むが、基準改定の影響は不確定要素

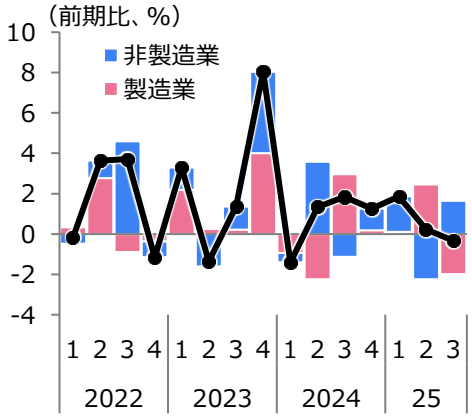
政策・経済センター
田中康就・田中嵩大・山本道也
03-6858-2717

1 GDP2次速報予測結果

単位：断りがない限り前期比（%）		2025年 7-9月期 1次速報実績	2025年 7-9月期 2次速報予測
実質GDP	前期比年率	▲ 0.4 （▲ 1.8 ）	▲ 0.5 （▲ 2.0 ）
民間最終消費支出		0.1	0.1
民間住宅		▲ 9.4	▲ 9.4
民間企業設備		1.0	0.4
民間在庫変動	寄与度	▲ 0.2	▲ 0.1
政府最終消費支出		0.5	0.5
公的固定資本形成		0.1	▲ 0.6
財貨・サービスの輸出		▲ 1.2	▲ 1.2
財貨・サービスの輸入		▲ 0.1	▲ 0.1
名目GDP	前期比年率	0.1 （ 0.5 ）	0.0 （ 0.2 ）
GDP デフレータ	前年同期比	2.8	2.8

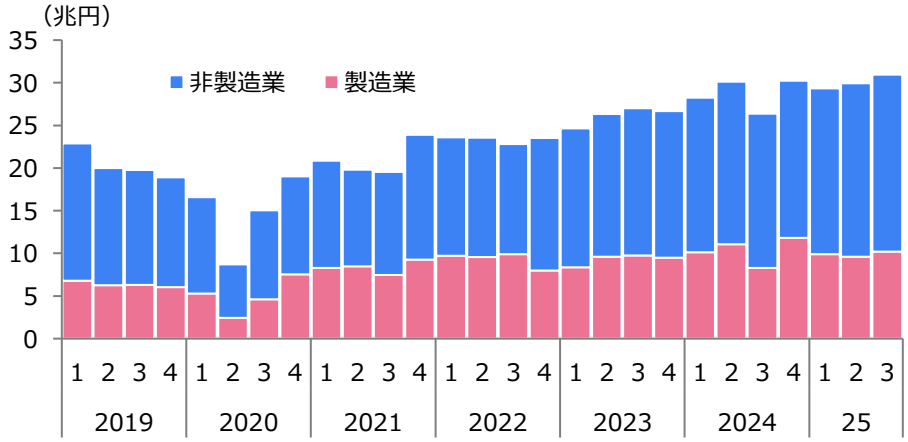
出所：内閣府「国民経済計算」を基に三菱総合研究所作成

2 設備投資（ソフトウェア投資を除く）



注：季節調整値。
出所：財務省「法人企業統計調査」を基に三菱総合研究所作成

3 企業の経常利益



注：季節調整値。
出所：財務省「法人企業統計調査」を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

予測結果

- 2025年7-9月期の実質GDP成長率（2次速報値）は、前期比▲0.5%（年率▲2.0%）と、1次速報値（前期比▲0.4%、年率▲1.8%）から下方修正を予想する（図表1）。
- 民間企業設備投資は、前期比+0.4%と、1次速報値（同+1.0%）から下方修正を予測する。12月1日公表の法人企業統計調査では、企業の設備投資（ソフトウェア投資を除く、季調値）は前期比▲0.3%と、6四半期ぶりのマイナスとなった（図表2）。GDP設備投資の需要側推計値は1次速報時点の仮置き値から下振れると試算される。
- 公的固定資本形成は前期比▲0.6%と、1次速報値（同+0.1%）から下方修正と予測する。25年9月の公共工事出来高の停滞を踏まえた。
- 民間在庫変動は前期比寄与度▲0.1%ポイントと、1次速報値（同▲0.2%ポイント）から上方修正と予測する。
- なお、今回の2次速報では、通常の改定に加えて、約5年に1度の基準改定に対応して、2024年度国民経済計算年次推計が反映される。内閣府は、国勢調査などの統計に基づき再推計した結果、2020年の名目GDPが約14.4兆円上方修正されると試算しているが、過去の成長率への影響について不確定要素が大きい。
- 本予測は、1次速報後に公表された法人企業統計などの統計の影響のみを織り込んでおり、基準改定による変動も考慮すると、幅をもってみる必要がある。

<参考> 法人企業統計調査（25年7-9月期）の概要

- 25年7-9月期の企業の経常利益（全規模ベース、季調値）は、前期比+3.3%と、2四半期連続で増加した（図表3）。製造業は同+5.9%と、3四半期ぶりに増加し、非製造業は同+2.1%と、4四半期連続の増加となった。製造業では特に電気機械・生産用機械の伸びが大きく、AI関連製品への需要の高まりが経常利益を押し上げたとみられる。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.